

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000252		
法人名	有限会社 ももえん		
事業所名	グループホーム ももえん		
所在地	佐賀県佐賀市川副町小々森1260番地1		
自己評価作成日	令和3年1月27日	評価結果市町村受理日	令和3年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム南側には田畑が広がり、窓から見える景色を感じてもらっている。併設している小規模多機能ホームと、一緒に行事をしたり声を掛け合ったりして交流もある。職員は支援していきなで理念を念頭に置きながら、利用者様1人1人の残存機能を活かした丁寧な介護が出来るように常に取り組み努力をしている。利用者様が重度化していく中で、穏やかに過ごしてもらえる様に取り組み、医師・歯科医・薬剤師・訪問看護・訪問マッサージ等他職種との連携も大切にしながら支援している。又、ご家族との関わりもしっかり出来るように努めており、毎月個別でのお便りを出したり、面会時や電話での状態報告等し、家族の要望なども聞き、信頼作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは田畑が広がる静かな場所で、敷地内に隣接して小規模多機能ホームが立てられており、地域を含め季節行事などの交流がなされている。主治医以外にも薬剤師、歯科医、訪問看護、訪問マッサージの他職種連携も行い一人一人に合った支援がなされている。入居者の生きる力を大切にして、残存機能の低下の防止に取り組みされた支援がなされている。毎月のお便りの中には入居者家族へ向けて、入居者の様子が分かるように写真とひと月分の状態報告など個別対応のお便りを送り、家族とのつながりが途切れないような支援や工夫がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を把握出来るよう、目に付きやすい場所にあげ、意識付けを行なって、実践しやすいようにしている。	事業所理念は、玄関や事務所内の見やすい場所に掲示し、会議時に、理念に基づいたケアを行うよう職員への意識づけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや他施設の行事に参加したり、施設での行事に参加してもらえる様、地域の方々に呼びかけつながりを持っている。今年度はコロナウイルスの感染予防の為、交流はほぼしていない。	コロナ禍以前は、近隣の高齢者施設や公民館での行事に出向いたり、ホームでの行事に参加を呼び掛け等を行い、双方向での交流を図っていた。コロナ禍が落ち着いた際は、交流を再開する予定である。また、回覧板にホームの便りを挟み、近隣住民との情報共有に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方・利用申し込み者・見学の方から相談を受け、アドバイス等行ない、1人1人のニーズに合った紹介が出来るように努めている。又機会があれば認知症講座をし、理解してもらえる様に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回開催予定だが、コロナウイルスの感染予防の為、活動状況・サービス提供の状況をまとめ、郵送して報告している。その後でた意見については全職員で話し合い、より良いサービスが提供出来るように努めている。	コロナ禍のため、2ヶ月に1度書面で会議を開催している。会議では、入居者の状況やホームの行事予定について伝え、議事録も整備されている。対面での会議開催時は、参加者から出された意見を全職員での話し合い、サービス向上に活かしている。しかし、書面での開催時に、参加者の意見を取り入れる工夫がなされていない。	開催時に参加者の意見を取り入れやすい工夫を行い、サービス向上に活かす仕組みづくりに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川副ネットワークの1員として行政との連携をとっている。包括支援センターへ相談やサービス提供の報告を行い、問題や課題の助言や指導を受けている。	1ヶ月に1度、川副ネットワークへ参加して、行政、地域、他事業所と連携を取り、協力関係が続けられるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がどのような行為が拘束になるのか、施設内での勉強会や、外部講師などの研修で理解を深め、改めて再確認し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。定期的に外部講師を依頼し、身体拘束についての研修会を行っている。また、身体拘束についてのマニュアルが整備されており、身体拘束に頼らないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止の重要性について、施設内での勉強会や、外部講師などの研修に参加してもらい理解を深め、どのような行為が虐待になるのか改めて再確認し、虐待のないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会や研修会に参加し、知識習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定の際には、納得が出来るように十分な説明をすることを心掛けている。又施設内も見学して頂いたうえで希望された方は契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意思表示のできる利用者や、ご家族の面会時には常に意見や要望がないかを尋ねている。頂いた意見や要望は全職員で話し合い反映させるように取り組んでいる。又改善策等の報告は運営推進会議の資料で報告している。	面会時に意見や要望を尋ねている。入居者・家族より意見や要望があれば全職員で話し合いを行っている。改善策は、運営推進会議で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務のなかや、毎月の勉強会・ミーティング等で意見交換を行い、業務に反映できるように努めている。	毎月、勉強会とミーティングの時に意見交換を行い、運営に関する意見や問題点があれば、全職員で話し合い、問題解決に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会や研修会に参加し、知識の向上を図ってもらったり、職員に役職をつけ給料水準をあげ、職員の努力が形に出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ついに1回の勉強会や、外部からの講習会等も定期的に行い、知識の習得が出来るように努めている。又業務中も必要な時は技術面の指導もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川副ネットワークや職場外での勉強会などに参加し、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話・表情等よく観察し、利用者様の思いをしっかり受け止めることが出来、安心して話しをしてもらえるように、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込時や面会時に要望を聞き、不安を和らげるように努めている。又職員間でご家族の困っている事等を把握し、職員全体で不安解消出来るように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様のそれぞれの状況を踏まえ、現段階で必要なサービス又は情報を提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩として尊敬しながら、話しをしたりし、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様・利用者様の思いを大切にし、家族・利用者様がの思いに近づけ、一緒に支援できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様や家族様にこれまでの生活歴や習慣を尋ね、利用者様の好まれる話しや今までの習慣を考慮し、馴染みのある生活を送れるように努めている。	入居者の自宅の前等、馴染みの場所へのドライブを行っている。冠婚葬祭等には、コロナ感染に注意しながら参加出来るよう支援し、関係が途切れないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様1人1人を尊重し、普段の生活から利用者同士が会話したり、関わりえるよう、職員が間に入り、お互いが支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談してもらえる様に声掛け、相談時には丁寧に対応し、必要な支援が行えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様・家族様の思いや生活歴を聞いたり、日頃の会話から把握し、1人1人を尊敬し、その人らしい生活が送れるよう努めている。	一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。思いや意向の表出が困難な方については、生活歴や家族等からの意見を参考にし、本人本位のケアを行うよう全職員で検討し、実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前・入所後も利用者様や家族様から、生活歴や馴染みの環境を情報収集している。又情報は全職員で共有し、ケアの統一に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の言葉・仕草・動き等を観察し、記録や申し送りをし、全職員が利用者様の日々の状態を把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員が中心に状態を把握し、利用者様や家族様・職員・主治医・看護師等の意見を取り入れながら利用者様に沿った計画をしていく。又状態変化があった時はその都度話し合い見直していく。	アセスメント、実施計画票、ニーズの情報記録等があり、定期的及び必要時にはケアプラン会議を行い、他職種、家族の意見を反映した介護計画を適切に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録を利用者様ごとに個別に行い、全職員が情報を共有し、より良い計画作成が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気を活かしながら、利用者様・家族様の意見・要望を傾聴し、今までのケアにとらわれず、柔軟な対応が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナのため実施出来ていないが、例年は行事などは地域のボランティアや消防署・警察署に協力して頂き、安心した生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様の希望のかかりつけ医にそれぞれ診てもらい、重度になってくると、往診できる医師にお願いし、定期的に往診・24時間の体制をとってもらっている。状態報告等は職員が対応し、適切な医療を受けられるようにしている	定期的に協力医の往診があり、24時間体制で医療や他職種との連携が図られており、必要な医療を適切に受けることが出来る環境が整備されている。家族による受診では、家族に対しホームの方から入居者の状況を伝え、家族が得た情報はホームに伝えてもらい、情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護師に週1回訪問してもらい、日々の報告・相談し、適切な助言や指示を受けている。又24時間オンコール体制をとってもらい対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ介護サマリーをおくり、利用者様が良い状態での治療が出来るようにします。入院中はご家族や病院との連絡をとり情報交換をし、退院をスムーズに出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にまず利用者様・家族様の意思を確認している。又重度化した際は段階に応じて意思の確認を再度行い、利用者様・家族様の納得のいく方法で最期を迎えられるように、主治医や看護師と連携をとりながら支援している。	入居時の説明の、重度化した際は、終末期のあり方について、入居者・家族の意思確認を繰り返し行い、支援に努めている。また、看取りに際する職員の不安軽減に配慮し、ホーム全体で話し合いながら看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から指導に来てもらったり、勉強会を行ったりして、緊急時に備えての動きを確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行い、1回は地域の消防団や地域住民も交え、かわそえネットワークの他事業所と協力体制もとり、一緒に訓練して災害時に備えている。	年に2回、地域住民が参加し、火災避難訓練を実施している。火災避難訓練では、避難経路や消火器の使い方等の確認も行っている。地震や水害への備えとして、避難マニュアルを作成し、全職員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、利用者様を人生の先輩として人格を尊重している。又誇りやプライバシーを損ねないよう、みんなが集まっている場所での声の大きさや言葉等気を付けるよう努めている。	入居者の尊重とプライバシーの確保について、ホーム内で勉強会を実施し、理解と実践に努めている。また、実習生を受け入れ職員が模範になることにより、入居者に対する言葉かけやプライバシーへの配慮について再確認する機会が確保されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた雰囲気作りやケアに心掛け、利用者様に意思表示や自己決定しやすいように声かけを工夫したりしている。意思表示が上手く出来ない方には、わずかな変化にも気づけるよう観察を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを優先し、どうしたいか尋ねたり、嫌がったら無理せず暫く様子を見てみたりし、希望に沿った対応が出来るよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を家族様に用意してもらい、更衣前は衣類を利用者様本人に選んでもらったりし、個人個人の身だしなみやおしゃれが出来るように取り組んでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から食べたい物を伺い、献立に取り入れるようにしている。又準備や片付け等も一緒に時間を作るようにしている。	日々、調理職員による手作りの食事が提供されている。入居者の好みを取り入れた献立や四季折々の行事を、一人ひとりの食形態に合わせて提供することで、食べる意欲を喚起し、食事が楽しみなものになるよう支援に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの食習慣を考えながら体調を考慮し、十分な栄養と水分摂取が出来るよう支援している。又重度化に伴い、1人1人の食形態の工夫や食事介助のペースを考え安心して美味しく食べられるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人1人にあった方法(歯ブラシ・クルリーナ・歯間ブラシ・液体歯磨き)で残渣物が口腔内に残らないようにしている。義歯使用者には定期的に義歯洗浄剤を使い、清潔にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者1人1人の排泄パターンを把握し、訴え時や時間を見ながら声掛け・日中トイレで排泄出来る方は誘導し、清潔にしておくように努めている。又手伝いすぎず、自分で出来る動作は自分でして貰っている。	排泄チェック表を活用し、入居者の排泄パターンを確認しながら、声掛けやトイレ誘導を行っている。入居者が出来る事を大切に、排泄の自立へ向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ココア等の食物繊維の多いものを摂取してもらったり、腹部マッサージをしたり・あたためたり、運動を行ったりし、排便を促す働きかけを行っている。又排泄チェック表を使い、排便の有無を把握出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来る体制をとっている。拒否されたときは無理強いせず時間をおいて再度声を掛けたり、職員が変わって誘ったりし、拒否のないときに入ってもらっている。排便がもれて洗ったほうが良い時は、夜間でも入浴し綺麗にする事もある。	週2～3回の入浴を基本とし、入居者一人ずつがゆっくりと入浴できるよう支援に努めている。浴室にはエアコンが完備されており、リフト浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調や生活習慣にあった寝具を準備している。又、日中も利用者様のペース・体調に合わせ、気持ちよく休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師と連携をとり病気や薬について分からないところは質問をし、注意点など把握出来るよう努めている。又しっかり服薬出来るよう飲み込むまで確認し、服薬後は状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を生活の中へ取り入れられるよう、レクリエーション等行い、持っている力を活用し、洗濯たたみや食器拭きなど、自信や喜びを感じてもらえるよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や体調に応じて、ドライブや散歩・買い物をしたり、地域のイベントにも参加出来るよう努めている。又、家族様にも協力してもらい、外出も行っている。	入居者の体調や希望に応じて、ドライブや散歩を日常的に行っている。季節の花見や地域のイベント等へも、感染症に注意しながら参加するよう努めている。家族の行事にも、家族と協力し入居者が参加できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持し買い物自由になるように支援する体制ではある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。又携帯の音が聞き取りにくかったり、手紙が届いたら、代わりに読んだり、手紙の文字が書けない場合は代行する等して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設南側は田畑を眺められ、作物の成長する様子で季節を感じられる。自然の光はブラインドで調整し、室温・湿度にも配慮をしている。	リビングには大きな窓があり、屋内にいなから四季の移ろいを十分に感じることが出来る。壁には、入居者と職員が一緒に作った作品が飾られており、温かい雰囲気漂っている。また、1時間に1度は換気を実施し、消毒も行っている。共有空間には加湿器も配置されており、湿度管理も行われ、快適に過ごせるよう配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、ゆっくりしたり、お話を出来るようにしている。ベッドもおき、横になりたい方はなってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのあるタンスや鏡台等を持ち込んでもらうよう家族に声を掛け、居心地が良く落ち着ける環境づくりが出来よう努めている。	入居者の状態に合わせた家具やベッドの配置となっており、持ち込みも自由である。個室には写真などで居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やソファ・ベッドなど、1人1人の身体機能に応じ、対応出来るように工夫している。		